



独立行政法人国立病院機構

東京医療センターだより

National Hospital Organization Tokyo Medical Center 第100号

発行日 令和6年9月
発行人 小林 佳郎
〒152-8902
東京都目黒区東が丘
2-5-1
電話 03-3411-0111
<https://tokyo-mc.hosp.go.jp>

基本理念 東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。



放射線科 宮下 慎也

統括診療部長を拝命して

統括診療部長 小山田 吉孝



この6月1日付で統括診療部長を拝命しました 小山田吉孝 です。平成17年7月に呼吸器内科医長として当院に赴任してから早いもので19年が経ちました。この間、禁煙外来の立ち上げ、地域がん診療連携拠点病院やがんゲノム医療連携病院の指定に関わりました。令和4年4月からは教育研修部長としておもに初期研修医の教育に、また、本年3月からは救急診療管理部長として当院の救急診療体制の改善に取り組んでいます。このたび、これらの部長職と兼任する形で統括診療部長となり

ました。医師・技師等の医療職を代表する立場であり、責任の重さを痛感しています。当院が今後も地域の皆さまに高度な医療を提供するためには、大小さまざまな課題を解決し続ける必要があります。診療部の先頭に立って取り組んでいく所存です。臨床医としても、毎週月曜日のアレルギー科外来、火曜日の呼吸器内科外来を引き続き担当いたしますので、ご利用いただけましたら幸いです。今後とも当院をどうぞよろしくお願い申し上げます。



東京医療センターだよりは
QRコードからご覧いただけます



診療科紹介：皮膚科

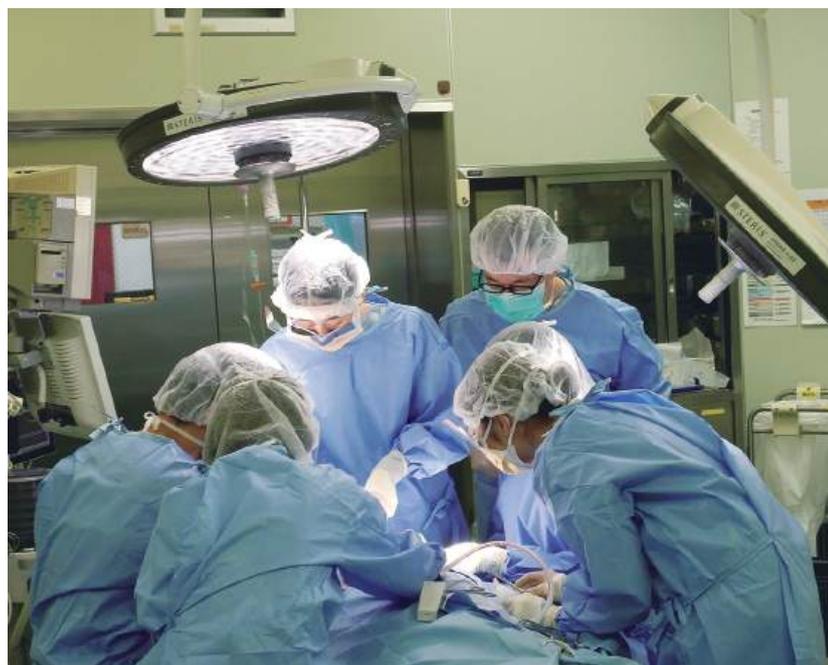
皮膚科科長 吉田 哲也

皮膚科は皮膚疾患を専門に扱う診療科でその対象疾患は接触皮膚炎・蕁麻疹などの比較的身近なものから、自己免疫性水疱症・皮膚悪性腫瘍、帯状疱疹・膿痂疹・蜂窩織炎などの感染症に至るまで多岐に亘り、年齢層も幼小児から高齢の方々までと幅広く広がっています。科長を含めた皮膚科専門医4名と専攻医1名の合計5名で、皮膚科専門医の非常勤医師2名の協力のもと、皮膚疾患に対しての診断・検査・治療を行っています。

現在、当科では下記分野に注力をしているので、その特徴をご紹介します。

【生物学的製剤の導入】

アトピー性皮膚炎、特発性の慢性蕁麻疹、乾癬、掌蹠膿疱症などに対して生物学的製剤（各種サイトカインに対する抗体製剤）の導入を積極的に行っています。特にアトピー性皮膚炎に関しては6年前より積極的に導入を行い、皮膚を良い状態に保ち、かゆみを軽減し、良好な睡眠が得られ、日常生活を支障なく過ごせるようになるなど生活の質の大幅な改善がみられています。生物学的製剤は高額療養費制度の対象になることも多く、その場合は医療ソーシャルワーカーと連携をしながら導入を行っており、これまでに100症例以上の生物学的製剤の導入を行っています。



全身麻酔手術

【皮膚がんを中心とした皮膚外科治療】

当院は「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、皮膚がんを中心とした皮膚外科治療を積極的に行っています。局所麻酔・全身麻酔の手術のいずれも行っており、その対象は基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、乳房外Paget病などの悪性腫瘍から粉瘤、脂肪腫、石灰化上皮腫などの良性腫瘍まで幅広く行っています。また、皮膚腫瘍のみならず皮膚感染症（壊死性筋膜炎や劇症型溶血性レンサ球菌感染症）などの緊急手術も昨年度は11件行い、2023年度の全身麻酔件数は年間50件で毎週全身麻酔の手術を行っています。

【光線療法治療】

皮膚科領域では紫外線治療機器で紫外線をあてて治療を行う光線療法治療が尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、尋常性白斑、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などで保険の適用となっていますが、当科では今迄この紫外線治療機器がなかったため光線療法治療は行えていませんでした。しかし、今年度に紫外線治療機器（エキシプレックス308[®]）を新規に導入し、新たな治療の選択肢としてこの光線療法治療が可能となりました。

地域の皮膚科の拠点病院として、地域の先生方と連携をとりながら患者様のお役にたてる医療を目指して参りますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。



紫外線治療機器（エキシプレックス308[®]）

優しさを伝える看護 ～ユマニチュード～

副看護部長 増谷 まり

みなさん、「ユマニチュード」をご存じでしょうか？

ユマニチュードとは、フランスの二人の体育学の専門家イヴ・ジネスト氏とロゼット・マレスコッティ氏が開発したケアの技法で「優しさを伝える」コミュニケーション技法です。この技法には4つの柱があります。「見る」「話す」「触れる」「立つ」この柱を元にケアをひとつの手順で行う「5つのステップ」があります。1. 出会いの準備（自分の来訪を告げ相手の領域に入って良いと許可を得る）、2. ケアの準備（ケアの合意を得る）3. 知覚の連結（いわゆるケア）4. 感情の固定（ケアの後で共に良い時間を過ごしたことを振り返る）5. 再会の約束（次のケアを受け入れてもらうための準備）の5つで構成されています。高齢化が進む現代において、高齢者や認知症患者の看護に役立つ技法です。当院でも積極的に実践できるよう院内教育計画に組み込んでいます。また、看護師長・副看護師長が中心となり、看護の質ワ

ーキンググループを立ち上げ取り組みを開始しています。さらに、当院の総合内科医長の本田美和子先生が代表理事であるユマニチュード学会と連携し、今年度よりユマニチュード・認定インストラクター養成研修を7月より当院で開講しています。当院より看護師5名、医師1名が受講しています。他施設からも7名の方が受講しており、現在病棟で実習を行っています。インストラクターの誕生を心待ちにしています。

本田先生をはじめ、総合内科の片山先生、林先生が積極的にユマニチュードを実践してくれています。これから、東京医療センターの職員で、ユマニチュードの輪を広げ、優しさを伝える技法が実践され、せん妄や認知機能低下がある患者さんも含め、全ての患者さんが、その人らしく過ごせる病院を目指していきたいと思います。

ユマニチュードは、家族の介護をしていらっしゃる方にも役立ちます。ユマニチュードに関して興味のある方は、ぜひお声かけください。



睡眠薬について

メンタルケア科科长 古野 毅彦

皆さんは睡眠薬にどのようなイメージをお持ちでしょうか？「副作用が怖い」「飲み始めるとやめられなくなる」などと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが。結論から言うと、睡眠薬は正しく使って頂くと安全な薬で、やめられなくなることもありません。また、2010年代からより安全な新しいタイプの睡眠薬が使用されるようになり、医療機関で処方される睡眠薬は劇的に変化しています。

従来使用されていた薬剤はベンゾジアゼピン受容体作動薬（商品名でレンドルミン、マイスリー、サイレースなど）というもので睡眠効果は高いものの耐性（飲み続けると効きにくくなる）、依存性（飲み続けていて急にやめると眠れなくなり飲み続けることになる）、ふらつきなどの副作用が若干ありましたが、新しいタイプの睡眠薬ではこれらの副作用は、ほぼ無くなっています。

では、新しい二つのタイプの睡眠薬について紹介していきます。一つは我が国の柳沢正史先生が開発に携わったオレキシン受容体拮抗薬です。オ

レキシンというのは覚醒状態を維持する物質で、これをブロックすることで眠りに入らせ、睡眠を維持させます。現在、バルソムラとデエビゴ（いずれも商品名）という2種類が使用されており、不眠の患者さんに医師がまず処方する薬の主流になっています。前述したようにふらつきなどの副作用も少なく、高齢の方にも安全にお飲み頂ける薬と言えるでしょう。二つ目はメラトニン受容体作動薬というものです。メラトニンは体内時計を調節するホルモンです。睡眠効果はそう強くないのですが、ずれてしまった睡眠時間をより健康的なリズムに戻す目的でも使われます。商品名でラメルテオン、ロゼレムという薬がこれに当たります。

日本では睡眠に悩みを抱える人は5人に1人というデータがあります。また、わが国の成人の7.4%が睡眠薬を服用しているという統計もあります（2004）。安眠は健康の基本です。睡眠薬も進化しており副作用の心配も少なくなりました。必要に応じて、睡眠薬を上手くご活用ください。

七夕祭

庶務係長 川俣 佳広

東京医療センターでは、毎年七夕が近くなると東京医療保健大学の学生にご協力いただき外来ロビーに笹と短冊を設置しています。今年も6月25日（火）から七夕までの間、大きな七夕飾りを設置し、来院されるみなさまが短冊に願い事を書けるようなイベントを行いました。イベントの期間中は、入院患者さん・外来患者さん・患者さんのご家族など大変多くの方が願いを込めて短冊を書いている姿が見受けられ、設置した笹は短冊であふれていました。短冊には患者さんご自身の健康や家族・友人の幸せを願うものなど、なかには飾り付けなどをお褒めいただいたものもあり、非常に嬉しく感じております。

7月7日の七夕が終わり、多くの方の願いが込められた短冊は、その願いが叶うよう神社へ奉納させていただきました。

七夕イベントは毎年ご好評をいただいておりますので、来年以降も継続して開催できればと思

ます。今後もみなさまに喜ばれるようなイベントを企画してまいりますのでご期待ください。



みんなが知りたい病気シリーズ ～白血病又は悪性リンパ腫～

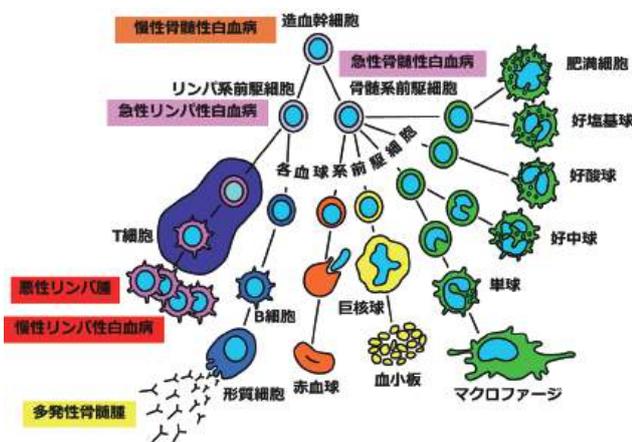
血液内科科長・血液管理室長 清水 隆之



<はじめに>

白血病や悪性リンパ腫は、いわゆる「血液がん」と呼ばれる疾患です。血液中にある白血球、赤血球、血小板やリンパ節にあるリンパ球などの血球は、骨髄の中で、造血幹細胞から分化（成長）し、完全に成熟してからそれぞれの働きをします。どこかの過程でがん化（腫瘍化）が起ると、白血病や悪性リンパ腫を発症します。

<正常血球の働きと主な血液がん>



好中球、好塩基球、好酸球は、細胞の中に顆粒が存在しており、顆粒球と呼ばれます。これらの顆粒球と単球、B細胞とT細胞を総称して、白血球と呼びます。B細胞やT細胞は、Bリンパ球やTリンパ球とも呼ばれます。白血球は、体内に侵入してきた異物（細菌、カビ、ウイルスなど）を除去します。赤血球は、肺で酸素を受け取り、全身に運びます。血小板は、出血をした時に血液を固めて止血をします。

造血幹細胞で腫瘍化が起こると慢性骨髄性白血病、造血幹細胞から少し分化した前駆細胞が腫瘍化すると急性骨髄性白血病や急性リンパ性白血病、成熟したリンパ球であるB細胞やT細胞が腫瘍化すると悪性リンパ腫や慢性リンパ性白血病、そしてB細胞がさらに分化した形質細胞が腫瘍化すると多発性骨髄腫になります。

<主な症状>

白血病では、腫瘍化した異常な白血球が血液中で増加するため、血液検査では、白血球数が高値になります。急性白血病は週の単位で進行します。急性骨髄性白血病や急性リンパ性白血病では、骨髄の中で、腫瘍化した前駆細胞（芽球とも呼びます）が急激に増加するため、正常な血球が作られる場所が減少します。赤血球減少による息切れやたちくらみなどの貧血症状、血

小板減少による鼻出血や全身の紫斑などの出血症状、また、白血球減少により感染症を起こしやすくなり、発熱が起こります。慢性白血病は年の単位で進行します。慢性骨髄性白血病や慢性リンパ性白血病では、発症時はあまり症状はなく、健康診断などで白血球高値で見つかることがほとんどです。

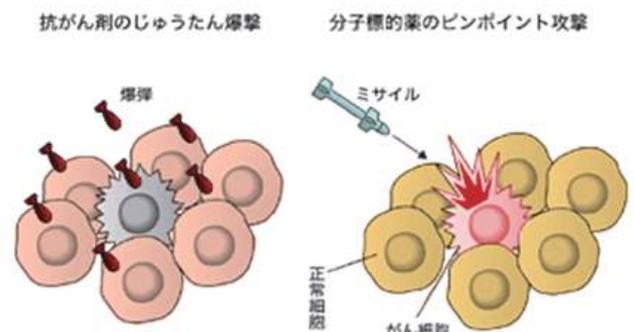


悪性リンパ腫では、首や脇の下、足のつけ根などリンパ節が腫れますが、多くの場合、痛みはありません。また、38℃を超える発熱や体重減少、寝汗などの全身症状が現れることもあります。

白血病も悪性リンパ腫も原因は不明であり、効果的な予防法も分かっていません。

<治療>

血液がんは、全身疾患であるため、複数の抗腫瘍薬を組み合わせた化学療法を行います。局所切除である手術は行いません。抗腫瘍薬は、静脈からの注射、もしくは、経口剤の内服で投与します。血液がんは、化学療法に対する感受性が高いため、治癒を目指した治療が行われます。抗腫瘍薬には、従来の抗がん剤（殺細胞性抗腫瘍薬）と近年開発されてきた分子標的薬があります。殺細胞性抗腫瘍薬は、がん細胞だけではなく、正常細胞へも影響があるため、副作用が強いです。分子標的薬は、がん細胞に特異的な分子異常を標的にピンポイントで攻撃するため、低侵襲であり、治療効果においても優れています。また、白血病や悪性リンパ腫には、様々な病型があり、治療が異なります。そのため、病型を正確に診断し、適切な治療薬を選択することが非常に重要です。



当院では、積極的に最新の分子標的薬を取り入れて治療を行っています。これからの血液がん治療のキーワードは、「腫瘍特異的」「低侵襲」「個別化」です。

難治性の血液がんや高齢者の方でも患者様の病態にあった個別の治療をすることが可能です。地域の医療機関の皆様からのご紹介をお待ちしております。

みんなが知りたい病気シリーズ ～シェーグレン症候群～

リウマチ膠原病内科科長 鈴木 勝也



Q. どんな病気ですか？

目や口が乾くのが特徴の膠原病です。乾きの症状はゆっくりと変化することが多いため、自分では気づきにくいかもしれません。目や口の乾燥は誰もが経験したことがあると思いますが、乾燥がひどい場合はこの病気かもしれません。

「目が痛くて開けていられない」、「悲しいときでも泣けない」、「飲み物がないとパンが食べられない」、「口や喉が痛い」、などの症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。乾燥症状以外にも、目の周り、耳やあごの下が腫れたり、微熱、倦怠感、関節痛が続いたりするなど、全身にさまざまな症状が現れることがあります。

Q. どんな人がこの病気になりやすいですか？

小児期から老年期まで幅広い年齢層に見られますが、特に中高年の女性に多く見られます。女性は男性に比べて約17倍この病気になりやすいと言われていています。

Q. 気になる症状があったらどうすればいいですか？

かかりつけの医師がいる場合は、まず症状を伝えてください。さらに検査が必要と判断された場合は、速やかに専門施設へ紹介してもらってください。目、鼻

や喉、口の乾燥がある場合は、乾燥の部位に応じて、まず眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科を受診することになります。これらの科からリウマチ膠原病内科を紹介されることが多いです。

Q. 乾燥症状が目立たない場合もありますか？

あります。例えば、健康診断でリウマトイド因子などの自己抗体検査が陽性となり、当科に紹介を頂き、この病気と診断されることもあります。また、乾燥とは関係ない症状の原因を調べているうちに病気が発見されることもあります。

Q. この病気は難病ですか？

厚生労働省の難病指定を受けていますが、無症状から重篤なものまでさまざまです。病気の詳細については、難病情報センターのホームページ<https://www.nanbyou.or.jp/entry/111>をご覧ください。

病状を丁寧に見極め、一人ひとりの状態に合わせた対応が必要です。当科は国立病院機構の政策医療（リウマチ・膠原病）の拠点として、特にシェーグレン症候群に対する専門性の高い医療に力を入れています。また、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科などの診療科や臨床研究・治験推進室と連携し、新しい診断法や治療法をいち早く提供できるように、積極的に臨床試験や治験に取り組んでいます。この病気の診療をご希望の場合は、お気軽に当科までご連絡ください。

東京医療センターだより第100号発刊を記念して

副院長、編集委員長 縦山 幸彦

今回の号で「東京医療センターだより」は記念すべき第100号となりました。1998年4月に国立東京第二病院から国立病院東京医療センターに病院名が改名され、1999年4月に13年間を要した新改築工事が完了し、2000年1月に創刊号が発刊されました。下記にありますように、創刊号の表紙には新しくなった外来棟と病棟とともに、玄関前には植えたばかりの木々の写真が掲載されています。今回の第100号の表紙の病院の写真を見ますと、25年が経過して木々が大きく成長した

のがわかります。2004年には国立病院から独立行政法人国立病院機構に変わりましたが、その間も東京医療センターだよりは年4回発刊し、近隣の診療所・クリニックおよび病院の登録医の先生にお届けするとともに、来院されました患者さんに手に取っていただけるように多くの部数を外来棟1階に置かせていただきました。是非、お持ち帰りいただき、ご覧いただければと思います。

国立病院 東京医療センターだより National Tokyo Medical Center 創刊号		発行日 平成12年1月 発行人 東條 毅 〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1 電話 03-3411-0111
 <p style="text-align: center;">病院全景 平成11年5月撮影</p>		
 <p>発刊によせて 病院長 東條 毅</p>	<p>解とご協力をいただくことが必要と考えております。</p> <p>この「病院だより」は、年4回の発行です。世相の変化は早く目まぐるしい程ですが、病院のなごりは季節でも充分でしょう。タクシーで「東京医療センター」が通じない現状が、この「病院だより」で少しは改善されることも期待したいところです。</p> <p>◆国立病院をめぐる動向 当院が国立東京第二病院として発足した昭和20年当時は、国立の病床数は全国の30%でした。しかし最近では5%に低下しました。このため再編成・合理化が進められ、239病院が153に減らされます。また平成16年度には、国立病院は当院を含め、すべて独立行政法人病院に変わります。</p> <p>◆独立行政法人 独立行政法人とは英国のエージェンシーの邦訳で、「代理人」を意味します。政府が立案しその代理実行機関としての病院が、独立行政法人病院となる訳です。独立行政法人病院が行うべき医療は、政策医療です。これは真に国として行うべき医療を指します。政策医療としての①</p>	
<p>◆病院の新しい動き このような建物の変化と共に、院内ではさまざまな面で診療体制も変えていこうとしています。国の基幹病院として診療水準を高め、診療内容の充実を努力です。</p> <p>病院名の変更は象徴されるこの新しい動きは、まず患者の皆様にも、また目黒、世田谷、玉川などの遠城医師会の先生方にお知らせして、ご理</p>		

国立病院 東京医療センターだより National Tokyo Medical Center 第2号		発行日 平成12年5月 発行人 田中 靖彦 〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1 電話 03-3411-0111
<p style="text-align: right;">http://www.hosp.go.jp/~ntmc/</p>		
 <p>院長新任のご挨拶 田中 靖彦</p>	<p>3年間副院長として勤めさせていただきましたが、この度 東條 毅副院長のあとをうけて、院長を命ぜられました。もとより後学非才であります。全力をあげて努めますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p> <p>◆循環器疾患（心臓、脳） ◆腎疾患（透析） ◆内分泌、代謝疾患（糖尿病、甲状腺） ◆免疫異常疾患（膠原病、リウマチ、アレルギー） ◆血液、造血器疾患（骨髄移植、造血幹細胞移植） ◆産科医療（周産期、小児期、思春期医療） ◆精神疾患（摂食障害）</p>	
<p>ここで言う政策医療とは、一言で言えば、国で行うべき医療、ということになります。このなかには19の分野が掲げられています。国立病院東京医療センターには「感覚器疾患」が高度専門医療施設として、全国の中心施設として掲げられています。「感覚器」といってもあまりなじみがないと思いますが、見る、聞く、の「眼科」と「耳鼻科」を中心に、診療、研究、教育、情報発信の高度総合医療施設に附属した「準ナショナルセンター」「国立感覚器センター」として機能するような整備が進められています。</p> <p>平成16年度から独立行政法人病院に、移行されることになっておりますので、これら政策医療ネットワークを中心に、早く主体性をもった院内メンバーの全員参加型の体制を作りあげなければならぬと考えております。</p> <p>一方、高度総合医療施設としての機能が附与されております。この、高度総合医療とは、「政策医療」が縦糸ならば、横糸にあたる働きをもっていると考えられます。すなわち各専門科の壁をとりはらった、横断的な医療および活動で、救急救命センター、災害医療、総合診療科、教育研修、地域医療研修、情報発信などが考えられています。ことに病診連携を促すために、地域医療研修センターの活動を中心に、地域の先生方や、コミュニティの教育、支援を行い、さらに情報発信し、患者紹介システムを構築して参らなければならないと考えております。</p>		
<p>◆本誌理念 国立病院東京医療センターは、病める人の心を和ませ身体を癒し、ともに健康と生活の質の向上を目指す国の基幹施設として、政策医療を担います。</p> <p>◆本誌の趣向 本誌は以下の方針で、診療、臨床研究、教育、研修、情報発信を柱とする政策医療を担います。</p> <p>1. 高度総合医療施設として、全国の拠点病院を目指します。</p> <p>1. 「国立感覚器センター」として、全国の中心機関を目指します。</p> <p>1. がん基幹施設として国立がんセンターと連携し、関東信越ブロックの十二の国立病院とネットワークを組み、高度先端医療を目指します。</p> <p>1. 政策医療分野の専門医療施設として、同分野の全国国立病院と連携して専門医療を</p>		

懐かしい創刊号と第2号の表紙

掲載する内容については、病院の各部門から選出された委員を集めた編集委員会で毎号検討して参りましたが、なかなか掲載記事が決まらないことも多く、診療科や部門の紹介、新任医師・職員の紹介といった病院の案内や院内で開催されたイベントだけでなく、健康や病気に関する患者さんにとって少しでも役立つ情報を掲載してきました。その1つはみんなが知りたい病気（もしくは医療機器）シリーズであり、テレビで話題となった病気や多くの人が罹りやすい・困っている病気について症状や治療法をその専門とする診療

科・部門に解説してもらいました。また患者図書室からのお知らせとして、毎回患者さん向けの本を紹介してきました。そして最後には少しホッとするように、フォトコーナーを作って当初は病院敷地内で見られる野鳥や花の写真を掲載していましたが、最近は職員の可愛いペットの写真を掲載するようになりました。

東京医療センターだよりを購読いただき、有難うございます。なお今回の第100号を一区切りとして、次回からは掲載内容から名称まで大幅に刷新する予定です。是非ご期待ください。



編集委員会のメンバー

日本病院ライブラリー協会研修会での講演 (看護師の生涯学習のために)

緩和ケア認定看護師 飯野 裕佳子

5月31日に、当院を会場として東京医療センター共催で行われた、日本病院ライブラリー協会2024年度第1回研修会にて講演させていただきました。参加者は60名で、近隣の方のみならず遠方から来られている方も参加されていました。研修会は講演だけではなく、グループディスカッションや施設見学などもありました。参加者アンケート結果は研修会の満足度が高く、図書室担当者以外の視点で話を聞いて興味深く参考になったとの意見をいただく事ができました。

話を頂いてから、講演内容を検討する過程で、

看護師は日々学び続けていることに気が付きました。看護師は日々、看護技術の習得や、臨床に必要な知識を身につけ看護師として自立（自律）を目指しています。また、学生指導や後輩指導を通して、看護師育成に関わっています。私自身、諸先輩方からの指導を受けながら、今後も多くの看護師と関わり、学び続け成長できるよう歩みを進めたいと思います。

今回の講演は、自分自身の看護師人生の振り返りにもなりました。良い機会をありがとうございました。

JHLA 日本病院ライブラリー協会 2024年度第1回研修会

開催日 2024年5月31日(金)

場所 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 外来診療棟3階 大会議室
〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
TEL: 03-3411-0111(代表)
アクセス方法 <https://tokyo-anchoosp.go.jp/patient/access.html>

テーマ「持続可能な病院図書室運営」

9:30～10:00 オプションA:目黒区立八雲中央図書館見学
<https://www.meguro-library.jp/location/yakumo-ibc/>

10:40～ 研修会受付 **研修会参加予定人数 60名**

11:00～ 会長あいさつ

11:05～11:30 活動報告:東京医療センター図書室での取り組み ※資料あり
澤澤 良美氏(国立病院機構東京医療センター)

11:30～12:00 実務講座:「現況調査報告」と「わたしの図書室」
深谷 亘子氏
(社会福祉法人恩賜財団済生会支部 埼玉済生会加須病院)

12:00～13:00 昼食・プロダクトレビュー

13:15～14:15 グループ討議

14:30～15:00 特別講演:持続可能な病院のために
根山 幸彦氏
(国立病院機構東京医療センター 副院長・図書委員会委員長、
国立病院機構文庫情報センター センター長)

15:00～15:30 教育講演:看護師の生涯学習のために
飯野 裕佳子氏
(国立病院機構東京医療センター 看護部 緩和ケア認定看護師)

15:45～16:25 図書室見学

16:40～17:10 基調講座:病院図書室の厳格管理 持続可能な病院図書室へ ※資料あり
高橋 里緒氏(新潟県立がんセンター新潟病院)

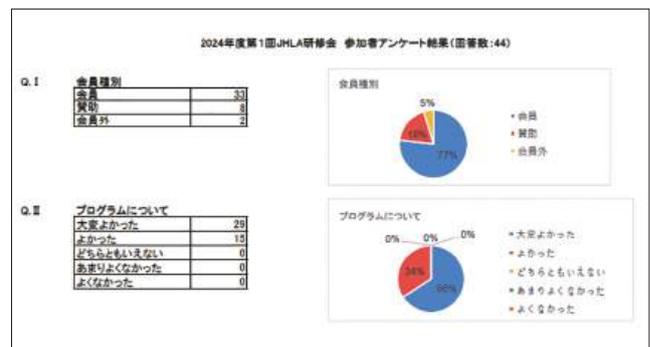
17:10～ 閉会あいさつ

17:30～18:00 オプションB:目黒区立八雲中央図書館見学

注意事項

- ・院内では常にマスクの着用をお願いします。
- ・院内は許可を得ない撮影はご遠慮ください。院内ではスタッフの指示に従って見学してください。
- ・プライバシー保護のため、スタッフや患者さん、図書室利用者が写る場所での撮影はご遠慮ください。
- ・JHLAホームページ、機関誌「はすびたる らいぶらりあん」で使用するため、研修会風景を撮影させていただきますことをご了承ください。顔が掲載されることに関し、問題がある場合には教育研修担当(受付)までお申し出ください。

主催:日本病院ライブラリー協会 共催:独立行政法人国立病院機構 東京医療センター



患者図書室からのお知らせ

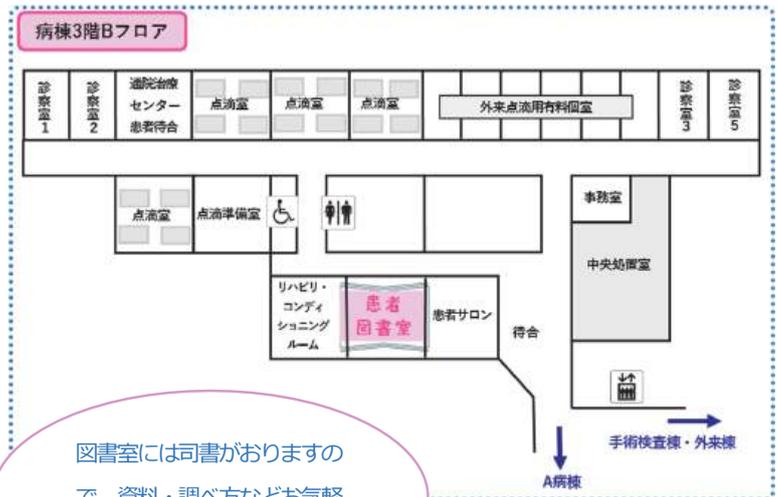
～患者さん向けの本をご用意しています～

患者図書室は病棟3階Bフロアのがん治療センター内にあります。患者図書室でお選びになった本は、がん治療センター内でしたら、ご自由にお持ちいただけます。読み終わりました本は、返却BOX（図書室・受付前待合に設置）へお願いします。入院中の方へは貸出も行っております。診察の待ち時間などに、是非ご利用ください。

利用案内

- 開室日：月～金曜日（平日）
- 開室時間：9時～15時
- 蔵書数：約1,200冊
- 利用者用パソコンは、情報検索や蔵書の確認、図書室内のDVD視聴等にご利用いただけます。
- ご利用にあたってはマスク着用・手指衛生をお願いしております。

患者図書室ホームページ



図書室には司書がおりますので、資料・調べ方などお気軽にご相談ください。



～第4回企画展示「飲酒と健康」のご案内～

“純アルコール量とは？ 生活習慣病のリスクを高める飲酒量とは？”

毎年、患者図書室では企画展示を行っています。4回目になる今年は「飲酒と健康」をテーマにして、資料の探し方や飲酒による健康への影響などをご紹介いたします。外来ホール、病棟3階Bフロアの待合および患者図書室にて関連した資料や情報のご案内、目黒区立図書館所蔵資料の紹介、自由にご参加いただける“ウィッシュツリー”なども企画しています。

この展示を通してアルコールによる健康リスクについて理解を深めるきっかけになれば幸いです。ぜひ、お立ち寄りください。

- がん治療センター
待合・患者サロン・患者図書室
10月4日(金)～12月20日(金) 9:00～15:00

- 外来ホール
10月4日(金)～11月8日(金)

この企画展は、目黒区内図書館4館（東京医療保健大学附属東が丘図書館・東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室・目黒区立八雲中央図書館・当室）で連携している「めぐりぶ健康ネット：めぐる図書館健康情報連携」の共同企画です。令和6年1月に、4館間にて「図書館資料等を活用した健康医療情報・保健福祉情報サービスに関する合意書」が取り交わされ、相互協力を図っています。



地域医療連携室からのお知らせ

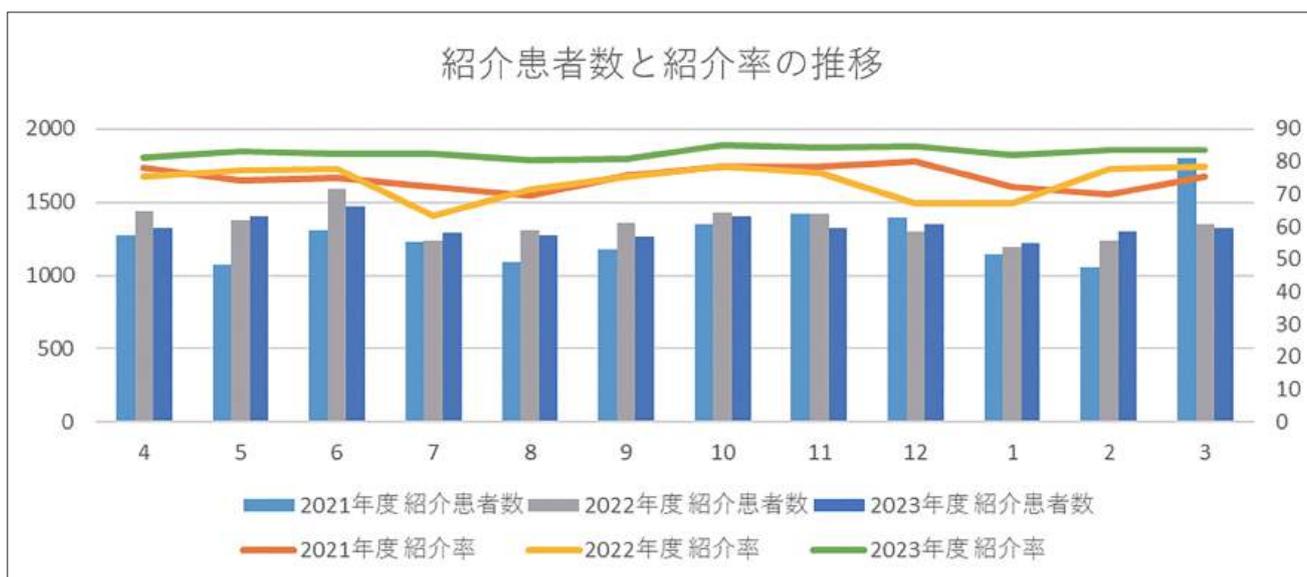
地域医療連携室長 鄭 東孝 地域医療連携係長 清水 裕子

平素より東京医療センターの診療に対し、ご支援並びにご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は地域医療支援病院として、専門的な治療や診断が必要な患者さんをかかりつけ医の先生方からのご紹介によりお受けする病院として、体制を整えてまいりました。

ご紹介いただきました患者さんは月平均1,300名前後で、紹介率も80%以上と安定してきております。一方、逆紹介は月平均2,000名前後で、逆紹介率は120%を超えてきております。

今後も地域の医療機関の先生方と適切な連携を図っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



地域医療連携室から2点ご案内がございます。

1点めは、地域医療連携カンファレンスについて、昨年度実施させていただきましたアンケートにより、開催日時を水曜日19時30分開始とし、web開催と現地開催の『ハイブリット形式』に変更して実施させていただく予定です。より多くの先生方の参加をお待ちしております。

2点めは前号にてご案内いたしました「かかりつけ医案内サービス」に関連しまして、当院に直接来院されたが外来で診察できなかった患者さんについて、登録医の先生方の医療機関をご案内した際、以下のカードをご持参いただくことにしました。ご多忙のところ恐縮ですが、ご高診の程、宜しくお願いいたします。

(表)

ご高診のお願い

当院に来院されましたが、当日受診出来なかった患者様が「登録医ご案内カウンター」をご利用され、貴施設をご紹介させて頂きました。

ご高診のほど、よろしくお願い申し上げます。

精密検査や専門的な外科治療、入院治療が必要な際には、先生からの紹介状を（診療情報提供書）を頂ければ当院が責任を持って診療いたします。

独立行政法人 国立病院機構
東京医療センター
〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
TEL 03-3411-2595 FAX 03-3411-2596
<https://tokyo-mc.hosp.go.jp/>

(裏)

登録医ご案内カウンターとは…

- 当院に受診のためご来院されましたが、当日受診出来なかった患者様がご利用されます。
- 患者様からご希望のエリアをお聞きして、当院の登録医施設を優先的にご紹介しています。
- 正式に診療受付していませんので、診療情報提供書はございません。

独立行政法人 国立病院機構
東京医療センター

📷 ✨ フォトコーナー 📷



登録医紹介

テツダ耳鼻咽喉科

院長あいさつ

現在は学校医をはじめ、玉川医師会で学校医部担当理事を勤めさせていただき地域の子供たちの健康維持・管理にも関わらせていただいています。

検査結果はモニターを用いて患者さまにできるだけわかりやすく説明できるように配慮させていただいています。

スタッフ一同、心のかもった対応を心掛け、皆様に信頼されるクリニックを目指し頑張る所存でございます。



院長
鐵田 晃久



診療科・医院案内

耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科・アレルギー科・気道食道科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	—
15:00~19:00	●	●	●	—	●	—	—

休診日：木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

〒158-0081
東京都世田谷区深沢5-23-19
☎03-3704-2157
<https://www.tetsudaent.com/>



院長あいさつ

田園都市線池尻大橋駅近くに大橋眼科クリニックを開院して22年になります。

地域の中核として最先端医療をになう東京医療センターとは、開業以来、患者様のご紹介のみならず、日々進歩する医療に関する情報提供や、行政・医師会と連携した災害時の医療対策など大変お世話になっています。

緑内障・白内障・黄斑変性や糖尿病網膜症・小児眼科・眼精疲労やドライアイなど患者さまの抱えていらっしゃる目の病気は多岐にわたります。高度医療機器を積極的に取り入れ正確な診断に繋げるとともに、あらゆる年代の患者様に寄り添った医療を心がけています。きめ細やかな医療はチーム

でご提供する時代です。視能訓練士が2名以上常勤しており、患者様に安心して検査を受けて頂けるようスタッフのスキルアップに努めています。携帯やPC作業に多くの時間を費やす現代、目に関するお悩みはどんなことでも遠慮なくご相談ください。



院長
島崎 美奈子



診療科・医院案内

眼科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	—	●	●	—
15:00~18:00	●	●	●	—	●	—	—

休診日：木曜・土曜午後・日曜・祝日

〒153-0043
東京都目黒区東山3-15-4 メゾン・ド・カナリ1F
☎03-5768-2215
<http://www.ohashieyeclinic.com/>

